

平成 26 年 6 月 13 日

各 位

会社名 インスペック株式会社
代表者名 代表取締役社長 菅原 雅史
(コード番号：6656 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理部長 富岡 喜榮子
TEL 0187-54-1888 (代表)

中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 4 月期を最終決算期とする中期経営計画（平成 27 年 4 月期～平成 29 年 4 月期）を新たに策定しましたので、お知らせいたします。

1. 中期経営計画策定の経緯

当社は、過去 5 年の間に、現在の主力製品である高性能基板 A O I（精密プリント基板における光学式配線パターン検査装置：SX5000、SX3000 シリーズ）に続き、高性能基板 A V I（精密基板における光学式最終外観検査装置：BF8000、BP7000 シリーズ）をリリースし事業活動を展開してまいりました。

これらの製品分野において当社は最後発のメーカーであったため、当社製品が持つ極めて高い検査性能やきめ細かいアフターサービス体制などの優位点が市場の評価を得るまでに一定の期間を必要としてきましたが、その評価が浸透してきた結果、一昨年後半から引き合い及び受注が大きく増加してまいりました。

また、昨年には、スマートフォン、タブレット P C やウェアラブル端末などの先端的なデジタル機器関連メーカーで、膨大な人数による目視検査を余儀なくされている外観検査分野において目視検査を自動化できる標準外観検査装置として高性能小型 A V I（AV500 シリーズ）を提案し、多くの顧客から引き合いを頂いております。

上記の通り、当社を取り巻く事業環境が大きく変化していることから、主力製品であるハイエンド A O I に加え、今後の高い成長が期待される A V I（外観検査）を当社事業の新たな柱として成長戦略を構築し、ここに平成 29 年 4 月期を最終年度とする中期経営計画を発表いたします。

2. 中期事業の方針（成長シナリオ）

当社は、ハイエンドの A O I 及び半導体パッケージ基板向け A V I で多くの実績を積み重ね、高い競争力を持つ技術とノウハウを蓄積してまいりました。また、F P C（フレキシブル基板）分野では、膨大な人数を必要としている目視による外観検査の自動化に対するニーズの急拡大に対応した標準外観検査装置として AV500 を提案するなど、幅広い外観検査ニーズに対し、最適なソリューションを提供するべく取り組んでおります。

これらの実績に新たな製品企画を加え A O I 及び A V I 全般の検査ニーズに対応する製品ラインナップの拡充に努めるとともに、販売代理店の協力を含めてサポート体制の強化を図り、積極的な販売活動を推進してまいります。

○ハイエンドAOI：SX5000シリーズ

当社のフラッグシップモデルであり、常に最先端のニーズに対応していくことで、業界の技術面におけるトップランナーとしての取り組みを継続してまいります。この取組で蓄積していく技術が、当社の他のモデルの競争力の原点になっていきます。

○高性能AVI

BF8000シリーズ（高機能半導体パッケージ基板用AVI）

BF1100シリーズ（ハイコストパフォーマンスの半導体パッケージ基板AVI）

BP7000シリーズ（CPU・MPU等ハイエンドパッケージ基板用AVI）

LF8000シリーズ（高密度リードフレーム、LED用基板向けAVI）

以上が主力製品のラインナップであります。

上記の装置は、いずれも生産が拡大を続けているスマートフォン用CPU基板、CSP基板やLED基板向けの外観検査装置です。従来装置よりワンランク高い検査能力を持っており、高度化する検査ニーズにいち早く対応した製品群になっております。

また、上記の他に、主にフレキシブル基板市場において目視検査に頼っている外観検査について、自動化に向けたニーズが急速に高まっていることに対応する製品として、下記のモデルの提案を行っております。

○標準型AVI（AV500、AV3300シリーズ）

スマートフォン、タブレットPCやウェアラブル端末などの先端的なデジタル機器には数多くのFPC（フレキシブル基板）が使用されており、膨大な人数による目視検査を余儀なくされております。これらの製品は精密度が高く、従来のAVIでは検査が出来ないため目視検査に頼ってきた経緯があります。

これに対し、当社ではハイエンドの検査装置で培ってきた検査技術とノウハウを投入し、目視検査に変わりうるAVIとしてAV500を提案しております。この分野は今後自動化のニーズが大きく拡大していくことが見込まれるため積極的に取り組んでまいります。

○ロールtoロールAOI（RA5500シリーズ）

前述のFPC分野に加えタッチパネルの分野では、生産性を高めるため、今後ロールtoロール方式による連続生産方式が採用されて行くことが予想されており、一部大手メーカーが取り組み始めております。

特に、生産工程で形成された配線パターンの連続検査は、特殊な技術要素があり高い技術を要求されるため、検査の自動化が今後の課題となっております。

当社は、もともと液晶用TABテープAOIで培ったロールtoロール方式による精密AOIの技術をもっており、これにハイエンドAOIで築いてきた検査技術を融合させることで、今後のこの分野における検査ニーズに対応していくことが可能であります。これらのことを背景に、すでに国の支援制度（補助金）を活用して評価用の装置の開発を進めており、今年度後半から積極的な販売活動に取り組んでまいります。

以上の通り、製品ラインナップを拡充し、販売及びサービス体制の強化と合わせて、高い成長を実現できるよう取り組んでまいります。

3. 中期経営計画数値目標

本中期経営計画期間の主な製品分野は、基板AOI、基板AVI及び保守・サービス等のその他であります。

平成26年度策定の中期経営計画の数値目標（※）

（百万円）

		第 27 期 平成 27 年 4 月期	第 28 期 平成 28 年 4 月期	第 29 期 平成 29 年 4 月期
売上高	基板 AOI	600	610	640
	基板 AVI	1,030	1,470	2,060
	その他	70	120	300
合 計		1,700	2,200	3,000
営業利益		100	260	400
経常利益		80	240	370
当期純利益		80	220	340

（※） 当社の製品について必ずしも計画通りに販売出来る保証はありません。

当社の検査装置は、受注から検収まで約4ヶ月を要し、ユーザーの検収に基づき売上を計上しております。また、1台当たりの製品が比較的高額であることから、ユーザーの検収タイミングによっては、事業年度期間を前後することで当社の売上が変動し、当社の業績に影響をおよぼす可能性があります。

4. 取り組み方針

（1） 基板AOI

基板AOIは、国内市場は直販と代理店販売、台湾及び中国市場は台湾のTKK（台湾港建股份有限公司）を代理店として販売及びサービス活動を展開いたします。

台湾及び中国以外の南アジア地域等については、新たな代理店と協力関係を構築して展開してまいります。

（2） 基板AVI

基板AVIは、基板AOIと同様の取り組みで展開いたします。

（3） その他

顧客の保守・サービスについては、国内市場は直接サポート、海外については、代理店と協力体制を構築し、直接サポートと代理店によるサポートを連携して対応してまいります。

5. 財務及びキャッシュ・フロー方針

当社は、事業における生産活動及び技術開発や設備等の投資活動をベースとして企業価値の向上を目指し、最適な財務及びキャッシュ・フロー戦略を実行してまいります。

当社は、過去数年間にわたる業績低迷が続いた結果、平成24年10月以降著しく財務内容が悪化いたしました。その後国内及び海外市場における当社の評価が高まるにしたがって受注及び売上が増加し成長の兆しが明らかになってきたことから、将来の成長に向けた積極的な取り組みを目的とした第三者割当増資による資金調達を実施し、現在は健全な財務内容になっております。

今後、当中期経営計画の中で創出されるキャッシュ・フローは、成長を支える戦略製品の開発に重点を置きつつ、健全なバランスを維持して活用してまいります。また、まとまった大口受注の発生等により一時的な資金需要の発生が想定されますが、主要取引金融機関との良好な関係を構築し機動的な資金調達による資金繰りの安定化に努めてまいります。

なお、当社では、株主様への利益還元に付きまして、早期に安定配当ができる事業基盤を構築し株主様への配当を実現したいと考えております。そのため、当中期経営計画の期間は、競争力のある製品開発に一定程度の開発投資を継続し、同時に販売ネットワークの拡大に努め、高い成長と安定経営を実現できる事業基盤の構築により、安定配当が可能な収益基盤への土台づくりの期間として取り組んでまいります。

6. 経営基盤強化に向けた主な取り組み

(1) 販売ネットワークの強化及び拡大

プリント基板産業は、日本で発展し台湾及び韓国に展開し、その後中国に拡大するという経緯をたどってきました。その後南アジア諸国が高い経済成長を示すようになるとともに多くの企業がASEAN諸国に進出しております。

この地域での販売を拡大していくため、新たな代理店各社と連携し、当該市場のニーズにあわせた製品開発に取り組むとともに、新たな代理店との連携を含めたネットワークの拡大に努めてまいります。

(2) 事業分野の拡大

当社の事業は、精密プリント基板の外観検査に特化した事業展開となっており、この業界の景気の変動が当社の業績に直接影響を及ぼす構造となっております。このため、業績変動のリスクが高い事業形態であると認識しております。

これに対し、景気変動を受けにくい経営体制を実現するため、新たな事業分野の開拓を計画しリサーチ活動を開始しております。当社の成長を支える新たな柱として、当中期経営計画期間の2年間で事業分野を絞り込み、最終年度に新事業としてスタートを切る計画です。

(3) スリムでシンプルな経営体制の構築

当社は、装置メーカーとしては極めて小規模な企業体制をとっております。この小規模であることを強みとして活かし、その上でグローバルな市場で事業を展開していくため、コアとなる業務及び技術をしっかりと社内で実行できる体制を構築し、外部の協力を得ることで可能な業務は徹底してアウトソーシングで対応する、という方針で取り組んでまいります。

このため、販売活動のみならず、生産業務、サービス業務、一部の開発業務等についても、国内海外を問わず、求める能力とコストのバランスを検討し最適なパートナーとして判断できる企業と協力関係を構築して事業展開を進めてまいります。

この取り組みにより、スリムな体制を維持しつつ高成長高収益を目指し、強固な経営基盤の構築を実現してまいります。

上記に記載した数値目標については、現時点で入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。この数値目標には、さまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの数値と異なる場合がありますので、当該情報に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えていただきますようお願いいたします。

以上